

# 事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

## 東京都福祉サービス第三者評価(2023年度) 評価結果報告書

2024年3月29日

学校法人正和学園  
幼保連携型認定こども園正和幼稚園 御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1  
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	②	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	④	H1901083	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認定こども園			
評価対象事業所名称	幼保連携型認定こども園正和幼稚園			
事業所連絡先	〒	195-0074		
	所在地	東京都町田市山崎町2261-1		
	TEL	042-791-2746		
事業所代表者氏名	大崎 志保			
契約日	2023年	9月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2023年	12月	6日	
利用者調査結果報告日	2024年	2月	20日	
自己評価の調査票配布日	2023年	12月	6日	
自己評価結果報告日	2024年	2月	20日	
訪問調査日	2024年	2月	26日	
評価合議日	2024年	2月	26日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念 いきいき</li> <li>・保育方針 こども中心</li> <li>・保育目標</li> </ul> <p>①それぞれのいのちを、こころ、からだ、自然から感じとり大切にします。          ②居心地のよい、安心できるこの場所で、「私は、私である」ことを実感します。          ③社会の一員として、つながりあい、影響をあたえあいます。          ④相手の想いを聴き入り、自分の想いも伝えます。          ⑤試して、工夫して、つくりだす経験をします。自分なりに納得するまで探究します。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今すぐここで、子どもの心に寄り添い、子どもたちの興味関心をひろげることにおもしろさを感じる。 子どもたちの心が動いた時に、自分が何をすべきか考え、かかわる。</li> <li>・地域福祉にも関心があり、他者の心のよりどころとなること、地域の居場所になることに積極的にかかわる。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内のことだけでなく、世界・日本規模でも考え、多様性を受け入れる気持ちを持っている。</li> <li>・なぜと疑問に思ったことはそのままにせず、聴き合い、考えを伝え合う。他者との対話から学ぶ。</li> </ul>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯194(在籍児童数208)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	208
利用者家族総数(世帯)	194
共通評価項目による調査対象者数	194
共通評価項目による調査の有効回答者数	107
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	55.2

## 利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」37.4%・「満足」42.1%の計79.5%で、設問別では「食事」「急な残業等への配慮」「子どもの気持ちの尊重」など、全18問中10問で80～90%台の高い支持を得ている。  
自由意見では「地域との連携があり、さまざまな体験をすることができ、自然のものを活用した遊び、想像力が広がる環境設定が魅力的で、子どもの主体性を大切に、個々に合わせた活動を行ってくれる」「自然にたくさん触れる経験や食材にこだわった給食提供をしてくれ、先生方の保育力が高く、職員の人数が多く安心で、他の施設とは違った行事やイベントがあり、いろんな経験ができる」「子どものペースに合わせて、自発的に動くことを待ち、尊重してくれ、さまざまな時間・年齢・国籍の交流があり、多角的な視点で園生活を送っており、食育も素晴らしく、給食もおいしい」「清潔感があり、先生も子どもたちを一人ひとりしっかり見てくれ、子どもも園で字やお箸の使い方などを自然と覚えている」など、感謝の声がさまざまに寄せられている。  
また要望等として、教育・保育や行事、安全・保健衛生や情報発信・日常のコミュニケーション、職員の体制・連携などに関することが見られた。

## 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	88	15	4	0
<p>実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が82.2%、「どちらともいえない」が14.0%、「いいえ」が3.7%となっており、「はい」の値は前回(2020年度・以下同、72.2%)から改善されている。            自由意見は10件で、「とても充実した日々を過ごさせてもらっている」「ちょうどよい活動量だ」「昼寝がしたい時は昼寝の部屋があって、そこへ行って寝ていると子どもから聞いている」などのほか、昼寝の時間や環境の確保について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	92	14	1	0
<p>「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が13.1%、「いいえ」が0.9%となっている。            自由意見は9件で、「同世代の友達との関わりは非常に有意義である」「泥遊びをきっかけにインターネットで調べ物をし、子どもの知識や興味を広げてくれた」「家庭ではできない経験がたくさんあるので、とても役立っている」などのほか、日常の活動内容について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	92	15	0	0
<p>「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が14.0%となっている。            自由意見は6件で、「基本的に楽しめているが、やりたくなければ無理させない方針がありがたい」「毎日泥んこになって帰ってきて、水・土・自然を遊べて満足できているようだ」「集団での行動から外れても、別のグループとして関心ごとに関わっているようだ」のほか、子どもの興味・関心の伸長や活動内容について、さらなる配慮を望む内容が寄せられている。</p>				
4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	99	6	1	1
<p>「はい」が93.4%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0.9%となっている。            自由意見は12件で、「いつもおいしい！と喜んでいいる」「本人は好き嫌いが多いが、無理せず、でも少しずつ促してくれて感謝している」「食育を熱心に行っていることもあり、とてもよい環境と給食の提供があると思う」「スタジオキッチンと本人は呼んでおり、食べる前の段階のものを見られたり、食べられるものが増えている」などのほか、食事の提供量やおやつの内容について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	89	15	3	0
<p>「はい」が83.2%、「どちらともいえない」が14.0%、「いいえ」が2.8%となっている。            自由意見は7件で、「家庭だけでは難しい部分なのでありがたい」「さまざまな機関や地域との連携があり、家庭ではできない経験の場が多く確保されていて、とても満足している」「十分過ぎるほどだと感じている」などのほか、行事のさらなる充実を望む声が寄せられている。</p>				
6. 保育時間の変更が急きょ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	95	6	0	6
<p>「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が5.9%となっている。            自由意見には「柔軟だと思う」「急な延長にも対応してもらっている」「以前の園では15分ごとに変更連絡が必要だったので、保育時間中いつでもよいというのはとても助かっている」「当日の変更にも対応してもらっている」「保育園や幼稚園より柔軟であるので、とても助かっている」の5件の声が寄せられている。</p>				

7. 安全対策が十分取られていると思うか	53	38	14	2
<p>「はい」が50.5%、「どちらともいえない」が36.2%、「いいえ」が13.3%となっており、「はい」の値には前回(40.3%)から改善傾向が見られる。</p> <p>自由意見は20件で、「特に配慮が必要な場合もそばについてくれ、家庭へもアドバイスがあり大変ありがたい」「先生も多く配置されている」のほか、保育中の安全管理や設備面、外部侵入対策、感染症対策等について、気になる点や要望が挙げられている。</p>				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	77	23	5	2
<p>「はい」が73.3%、「どちらともいえない」が21.9%、「いいえ」が4.8%となっている。</p> <p>自由意見は6件で、「土曜日、夕方に行われるなど配慮が十分でありがたく、助かる」「大きな行事は参加しやすい」のほか、行事の日程の設定、日程等の連絡などにおける各家庭への配慮、行事実施の頻度について、さらなる検討を望む声が見られる。</p>				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	72	27	7	1
<p>「はい」が67.9%、「どちらともいえない」が25.5%、「いいえ」が6.6%となっている。</p> <p>自由意見は14件で、「いつも子どもや私の話をたくさん聞いて、一緒に考えてくれる」「子育ての悩み、親のメンタルまで心配してくれ、安心して預けられる」「子どものことをよく見てくれていて、先生たちに会うと子どもの様子を教えてくれるのがうれしい」などのほか、コミュニケーション機会の確保や日頃の子どもの様子などの報告について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	73	24	9	1
<p>「はい」が68.9%、「どちらともいえない」が22.6%、「いいえ」が8.5%となっており、「はい」の値は前回(48.8%)から改善されている。</p> <p>自由意見は11件で、「子どもがいる空間としては十分だと思う」「靴下・靴などしっかりと名前を書けば忘れ物もない」「きちんとされている」のほか、清掃・整理整頓や衛生管理について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
11. 職員の接遇・態度は適切か	92	15	0	0
<p>「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が14.0%となっている。</p> <p>自由意見は10件で、「先生方皆さん優しく、相談しやすい」「どの先生も明るくいつも挨拶をしてくれ、気持ちがいい」「その人らしさ、文化・背景を尊重しつつ、清潔で好感が持てる」「とても素晴らしい」などのほか、職員による対応・接遇について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	88	15	3	1
<p>「はい」が83.0%、「どちらともいえない」が14.2%、「いいえ」が2.8%となっている。</p> <p>自由意見は10件で、「異変によく気づき共有してくれる」「とても丁寧に対応してくれる印象だ」「熱など、「できれば早めのお迎えを…」と言われたが、子どものためにすぐに迎えに行こう！と思えたのは、日頃の信頼あってこそそのやり取りで的確である」などのほか、ケガや体調変化等の把握・対応、保護者への連絡について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	61	24	7	15
<p>「はい」が66.3%、「どちらともいえない」が26.1%、「いいえ」が7.6%となっており、「はい」の値は前回(50.0%)から改善されている。</p> <p>自由意見は11件で、「きちんと指導してくれていると思う」「お互いの気持ちを考えられるように促し、その場限りではなく次に仲よく遊べるように対応してくれている印象である」「こちらが何かされた時には報告してくれる」のほか、子ども間のトラブル等の把握や保護者への情報提供などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				

14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	93	12	0	2
<p>「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が11.4%となっている。  自由意見には「本当に寄り添ってくれている」「職員の方々はどの方も名前を覚えてくれていて、子どもがたくさんいるのに素晴らしいと思う」「職員によって考えが違ふと感じることもあるが、いずれにしてもわが子のための対応と納得している」など4件の声が寄せられている。</p>				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	86	5	1	15
<p>「はい」が93.5%、「どちらともいえない」が5.4%、「いいえ」が1.1%となっており、「はい」の値は前回(81.4%)からさらに良化している。  自由意見は、「皆さんデリカシーのある先生ばかりで、距離感がおかしいことはない」「とても慎重に対応してくれていると思い、ありがたい」の2件があった。</p>				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	75	23	8	1
<p>「はい」が70.8%、「どちらともいえない」が21.7%、「いいえ」が7.5%となっており、「はい」の値は前回(56.8%)から改善されている。  自由意見は12件で、「時と場所を選んで、バランスのよい情報量に配慮されていると感じる」「毎日メールや写真で報告があるのはとてもうれしい」「全体としての方針はわかっていると思う」のほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	72	15	8	12
<p>「はい」が75.8%、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が8.4%となっている。  自由意見は10件で、「すぐに対応してくれた」「だいたいお便りケースへ手紙を入れるが、きちんと折り返しの電話をくれる」「こちらの勘違いにも真剣に対応してくれてとてもよく、好感が持てる」などのほか、保護者の不満・要望等への柔軟な対応や職員間の情報共有について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
18. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	69	14	5	19
<p>「はい」が78.4%、「どちらともいえない」が15.9%、「いいえ」が5.7%となっており、「はい」の値は前回(60.4%)から改善されている。  自由意見は6件で、「ポスターや書類等でもあらかじめ伝えられており、不安がない」「口頭でもしっかり説明があり、園の入口にも掲示されている」「入園時に第三者委員の説明はある」のほか、外部の意見窓口の周知や園の対応について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	法人共通に目指すものを象徴する理念・方針等を、保護者や職員に周知させている 法人共通にこどもたちの育ちに寄せる思いや、運営と教育・保育におけるあらゆる場面における姿勢を象徴する、基本理念「いきいき」・保育方針「こども中心」をはじめ、法人として目指すものを示す理念・方針等を定め、保護者には見学・入園時の説明のほか、園便り・学年便りへの記載、保護者会・懇談会や日々の発信物等を通じたそれらの実践の紹介などを通じ、理解と認識の共有に努めている。また職員には入職時の基礎教育のほか、毎年度開始前の全体研修会、日々の会議での話し合いなど、周知や実務体験を通じた再理解の機会が設けられている。 経営層がそれぞれの職責のもとで運営を統括し、現場との園の方向性の共有に努めている 園長・副園長・主任が、経営層として園の運営全般や意思決定の中核を担っており、経営層を含む各職位・職種は、就業規則や上記の全体研修で全職員に配付される資料などに示されている。また年度開始時の会議で事業計画の概要を職員に説明し、年度の園の方向性を現場と共有するほか、日々の会議や毎日の昼礼等で、折々の園・法人の方針や施策を職員に伝えている。運営においては、現場との密な連携と話し合いのもとでの意思決定を旨とするともに、こども・家庭や職員の多様な特性の受容を環境として整え、園の強みとすべく取り組んでいる。 意思決定のための会議体と、必要な情報の関係者への周知の仕組みを整えている 園内における種々の案件の検討・決定は、正規職員が集う毎月の職員会議や、経営層とカリキュラムコーディネーターによる随時の会議で行い、各会議が相互に連携しながら園の施策・方針を明確にしている。これらの会議では、各学年の毎週の会議や、各分野で行う職員参画の委員会活動の報告もなされ、検討に反映されている。決定事項等の必要な情報は、議事録・資料や毎日の昼礼などを通じて不参加者を含む組織全体に周知され、保護者にはアプリでの配信を基本に、案件や要望に応じ書面も併用して、各種の重要な連絡事項が伝えられている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>6/6</b>
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
実践的な計画策定に取り組んでいる		5/5
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<b>カテゴリー2の講評</b>		
<b>法人の5か年の計画のもとで年度の事業計画を作成し、実行と進捗管理がなされている</b> 法人の「いきいき社会中期経営プラン」に、来年度まで5か年の法人全体の事業推進及び組織・財政運営等に関する方針・目標と、各分野の実行項目及び年度ごとの進捗の指標を定めている。これをもとに事業計画が立案され、今年度においてはインクルーシブ+ダイバーシティ保育の推進・地域の居場所づくり・園内の保育活動エリアの充実の3分野を重点項目として、四半期ごとの取組項目と定性・定量両面の目標、担当者などを定め、年度開始時に園長が職員に配付・説明している。計画の実行状況は前述の目標に照らし、各期末に確認がなされている。		
<b>日々の実務も計画のもとで行い、各計画に反映させる保護者・職員の意向を把握している</b> 日常の教育・保育をはじめとする現場の実務についても、分野ごとに年間及び各期間の実行計画が作成され、計画の期間に応じた取組内容と目標等を設定し、業務に反映されている。また上記を含む各計画の立案にあたっての課題抽出のため、さまざまな情報収集がなされており、保護者の意向は日々のコミュニケーションや保護者会・懇談会での傾聴のほか、行事後の感想収集や、今年度試行的に行った「お子様アンケート」による個別の悩み等の収集によって把握し、職員の意向は日々の各会議や経営層との個別の面談、業務内外の会話などから把握している。		
<b>経営環境の動向に関する各種情報の収集と、法人と連携した経営状況の管理を行っている</b> 地域の子育てや教育・保育などの状況を、市の幼稚園園長会をはじめとする教育・保育施設関係者が集う各種会議、立地する団地の再開発に関する会議などを通じて把握するほか、見学や地域支援「ころころひろば」等での未就園世帯との交流から、個別のニーズを把握している。また関連する行政の制度・政策の動向や業界内の話題・潮流を、自治体や各種団体の発信物や種々のメディア、交流のある他の法人との情報交換などから把握している。各種情報は上述の計画立案の参考とし、予算の作成や収支・稼働率等の管理は、法人が園と連携して行っている。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>2/2</b>
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー3の講評		
<p><b>職員が理解し徹底すべき種々の規範・倫理について、さまざまな啓発の機会を設けている</b></p> <p>「すごしかた」に、適切な接遇・身だしなみや「報・連・相」、機密保持や保護者・職員その他との公私の別をわきまえた関わりなど、社会人・保育者としての基本的な規範・倫理を定め、新人教育や毎年度の法人の全体研修会での確認などにより、各職員に理解と徹底を求めている。また休憩室にはハラスメントを戒める書面を掲示し、こどもの人権・尊厳への配慮と不適切な関わりの排除について、NG/OK用語の具体例を示す「こどもたちへの伝え方」をもとに、報道された不適切事例なども交えて読み合わせと話し合いを行うなど、徹底を図っている。</p> <p><b>園内と家庭でのこどもの虐待等の防止や、保護者の意向への適切な対応に努めている</b></p> <p>こどもへの適切な言動の徹底については、保育士団体のチェックリストを用いた各人の内省もなされている。また家庭での虐待・育児困難等の事案には、関係職員間で情報を共有し、行政機関と連携して支援にあたっており、各クラスでの複数職員による目配りなどにより、こどもの些細な異状などの虐待等の予兆の発見にも努めている。苦情解決制度を整備し、入園時の説明や園便りへの記載などによって保護者に周知を図るほか、日々のコミュニケーションを含めて各保護者の意向の把握に努め、個別の相談対応など、案件に応じて共通理解の獲得を図っている。</p> <p><b>地域の社会資源として、子育てやこどもの育ちを支援する積極的な取組を行っている</b></p> <p>各種ウェブ媒体や地域向けの掲示板、町田市を通じた情報発信、市内の各所での各種広報や実習生・ボランティア等の受け入れなど、透明性の確保に努めるほか、市内の教育・保育施設関係者の集う各種会議、立地する団地の再開発に関する「勉強会」と題された関係者会議など、地域の各種ネットワークにも加わっている。親子の遊び場「ころころひろば」、市内の各拠点で子育て家庭のくつろぎと交流の場や各種イベントを提供する「ゆったりラウンジ」「おやつつながりくらぶ」、団地の管理法人と連携した「冒険遊び場」など、地域貢献も積極的に行っている。</p>		

4			カテゴリー4		
リスクマネジメント			サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目				
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				<input type="radio"/> 非該当
			サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目				
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評					
<p>園の特性を踏まえた重要リスクの想定や、災害・不審者対策などの各種取組を行っている</p> <p>こどもの主体的な生活と遊びを重んじる教育・保育の方針や、それを意識した園庭・園舎の環境を踏まえ、こどものケガ等の事故の防止に努めるほか、2号利用児が多い園の運営形態上の特性から、災害時の保護者のお迎えの遅延も想定し、災害用のBCPには3日間程度を想定して基本的な対応を定めている。また毎月の避難訓練によって災害時の対応を確認するほか、侵入を想定した不審者対策訓練を年2回設け、防犯カメラによる要所の常時監視も行っている。AED・心肺蘇生や応急処置、エビベン対応・嘔吐処理などに関する園内研修もなされている。</p> <p>事故を防ぎ、こどもの安全を確保するために、種々の事例の共有と検証に取り組んでいる</p> <p>事故発生を想定し、事務室には園バスの運転手・運転管理者を含む緊急時の連絡体制を掲示するとともに、ケガ等の各種事例は受傷の度合などに応じ、直後の昼礼等での周知と原因・防止対策の考察・検討を行い、安全向上に活かしている。また事故の要因となる種々のヒヤリハットを、組織内の担当委員会が集計し、発生の傾向の分析や事故防止対策の検討などを行っており、毎月の職員会議で現場と共有するとともに、ソフト・ハード両面の種々の改善に反映させている。事故についても同様に行い、予防・再発防止の仕組みの精度を高めることも期待される。</p> <p>情報管理に関する関係者への啓発や、漏洩などを防ぐための各種措置がなされている</p> <p>就業規則や法人共通の「すごしかた」に、各種情報の取り扱いや機密保持に係る基本原則、実務上の具体的な禁止・遵守事項を定め、職員には入職時の研修と誓約書の提出により、徹底を促しており、実習生等には活動開始前のオリエンテーションを通じて守秘義務の厳守を求めている。また機密性に応じた書類の施錠管理、端末機器やソフトウェアの使用時のログイン制限、職位等に応じた情報アクセス権限の設定など、各種情報の漏洩や不正利用を防ぐための措置を講じている。保護者には入園時に、個人情報の利用目的などに関する説明がなされている。</p>					

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>12/12</b>
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
<b>評価項目1</b> 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー5の講評			
<p><b>人材の確保と園内の状況に即した人員配置、労働環境の各種整備に取り組んでいる</b></p> <p>法人が傘下の各事業所の職員の募集・採用を行い、法人のサイト・公式SNSの活用や各種養成機関・採用関連業者との連携など、多様な方法による人材の確保に努め、各事業所の体制の状況と各人の意向・キャリア形成等を考慮した配属・異動を行っている。担任は各人の能力や経験年数、チームとしてのそれらのバランスなどを踏まえて決定しており、教育・保育の安定に配慮し、各学年に継続担任者を配置する原則としている。各種の労務管理やストレスチェック実施、産業医と連携した法人全体の労働環境管理など、働く場としての環境整備にも努めている。</p> <p><b>職員の成長・キャリア形成の道筋を定め、個別の計画による成長支援にも取り組んでいる</b></p> <p>法人の「キャリアパス&amp;ライフプラン」に、年代ごとに想定される複数のキャリア段階と、階層・職位ごとの任用条件・研鑽の目安、ライフステージの推移と活用可能な法人の制度などを図示し、入職や法人の全体研修の際に職員に示されている。また「自己育成計画書」に、後述の各委員会の分野と連動する5分野の自己評価と、振り返り・成長課題の記述を各職員が半期ごとに行い、経営層が面談によって各人と共有し、OJTや研修派遣などの参考としている。中堅層にはグループ討議形式で目標や課題を伝え合い、相互の成長につなげる園内研修も設けている。</p> <p><b>内外の研鑽と多様に行われる話し合いが、現場の活力や園の教育・保育の質を高めている</b></p> <p>法人共通の手引き「すごしかた」に基づく新人の基礎教育もなされるほか、国のキャリアアップ研修や自治体・各種団体が行う各分野の研修に職員を派遣し、専門性の向上を促すとともに、報告書・資料や会議での報告による学びの共有化を図っている。また日々の会議でのさまざまな話し合いのほか、特別支援・多文化教育、食育・アレルギー、保健衛生・安全対策など6分野の委員会活動があり、職員主体の種々の改善活動の起点としており、メンバーを経験・担当や職種を横断する構成とすることで、職員同士の多様な交流と関係の深まりにもつなげている。</p>			

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度の事業計画では、多様な特性・文化を包摂する環境を整え、こどもたちがその中で豊かな情操や価値観・生活習慣などの多様性を受容し合える心を育む、インクルーシブ保育の充実を重点課題の一つとした。                  取組として海外出身者や障がい者の雇用の促進を挙げ、概ねの進捗の目安を四半期ごとに設定し、必要な活動を行った。                  取組は下記の「評価項目2」で後述する「地域の居場所づくり」とも併せ、園が地域の誰にとっても居心地のよい場所となり、その環境のもとでこどもたちがそれぞれの興味や関心に応じて物事に取り組み、生活を重ねてゆく、こどもを中心に地域のあらゆる人々が集うコミュニティの拠点となることを目的として行った。またこどもの発達が多様化し、個別の配慮が必要なこどもが年々増加していることや、海外出身の園児も増えていることも取組の背景にあり、こどものみならず、職員や保護者についても、多様性の受容に対する意識を高めてゆく必要性が認識されていた。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>海外出身者はJICA(国際協力機構)や提携する専門業者の協力も得て、保育補助の職員として採用した。また障がい者の雇用も行き、園内の環境美化や事務補助などを主な業務として、年度末まで勤務してもらっている。                  取組の進捗や成果は、事業計画の四半期ごとの振り返りなどを通じて確認した。こどもたちがそれらの職員と日々関わりを持つ中で、言葉の違いや意思疎通の難しさなども経験しながら、自分なりの方法でコミュニケーションを取ろうとしたり、相手を理解しようとする意欲や姿勢が身につく、ハラル食が生活の中で自然なものとして認識されるなど、取組はこどもたちの人との多様な関わりとさまざまな心の成長につなげられている。                  また職員にとっても同様の好影響があったほか、仕事を依頼する際の伝え方の工夫など、組織内のコミュニケーションの面でも改善に結びついている。                  今年度は取組をさらに深め、インクルーシブ+ダイバーシティ保育の促進を重点課題として、昨年度から継続する海外出身者・障がい者の雇用に加え、リモート媒体を活用した海外各地とこどもたちのオンライン交流、児童発達支援事業所の開設や次年度の医療的ケア児の受け入れ開始に向けた準備に取り組んでいる。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画では「地域の居場所づくり」も重点課題とした。具体的な取組として、法人が市内に設置した拠点での「ゆったりラウンジ」、町田市が子育て等の「かかりつけ窓口」として未就園世帯に登録を推奨している「マイ保育園」の当園への登録の促進、それらを通じた育児等の相談事業の利用の活性化を挙げ、年間を通じて推進した。「ゆったりラウンジ」では常駐の職員を配置し、一時保育の受け入れを年間1,500組を目標として行うほか、法人の小規模保育事業所にこどもを預けてのリモートワーク、さまざまなテーマで親子で楽しめる場を提供する「おやこワークショップ」、軽食とお茶を楽しみながらの子育て家庭同士の交流や有償の給食体験など、多様な取組を実施し、子育て家庭の出会いと交流やくつろぎの場を提供している。またマイ保育園登録は100名を目標として、園で行う「ころころひろば」の利用者や見学者、ゆったりラウンジの利用者などに声をかけ、登録を勧めた。相談事業の利用の活性化についても、これらを通じて随時取組を進めた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

ゆったりラウンジは平日週3回、年間を通じて実施し、年間で575組の利用を得ており、いわゆるリピーターも多く、地域の子育ての拠点として認知と活用が進みつつある。また一時保育は一般型の一時預かりとして1,422組、定期利用として2,003組の利用がなされており、マイ保育園登録は目標にわずかに届かなかったものの、98世帯の登録を得ている。これらの成果を踏まえ、今年度はゆったりラウンジをはじめとする一連の取組を引き続き実施するとともに、一時保育は市のバイオエネルギーセンター(ゴミ処理施設)が行う催しの際などにも実施しており、いわゆるアウトリーチ型の子育て支援の拡充を図っている。また地域の団地を管理する法人と連携し、団地内の広場の裏山で行う、こどもたちの「冒険遊び場」を開始しており、同様の活動を先んじて行っている地域の方や、地元の都立高校・私立大学などとも協力しながら、10月から毎月実施している。取組は地域のさまざまな人々が関わりを持ちながら、こどもたちが遊びの中で豊かな学びを獲得してゆく「ラーニングコミュニティ」づくりの拠点かつ先駆けとして、今後は市の助成なども得ながらさらに活動を充実させてゆく意向である。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の実望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>ホームページやSNSを活用し、園の大切にしている思いや特徴などを発信している</p> <p>園のホームページ(以下「HP」)では、基本理念「いきいき」や保育方針「こども中心」、5つの保育目標などが象徴的な写真とともに紹介されるほか、こどもの気づきから発展する主体的な保育について、園長のメッセージを添えて発信している。また施設環境の説明を掲載し、園内空中散歩の動画と、園の概要をまとめたパンフレットが閲覧できるなど、在宅においても園の様子や内容などが垣間見られるようにしている。その他、法人のSNSを活用し、写真や動画でこどもたちの活動の一端を知らせたり、地域の方が参加できるイベント等を紹介している。</p> <p>さまざまな連携を図りながら、地域の方々に園に関する情報を提供している</p> <p>地域の子育て世帯向けのイベントの開催情報は園のブログや市が発行する「ひろばカレンダー」に掲載し、地域の方々の参加を募るほか、市内の各エリアで地域向けのイベントや園児募集等のチラシを配布している。「まちだ子育てサイト」には、市内の地区別の認可保育施設の対象年齢や利用時間、所在地や連絡先の情報が一覧となって掲載され、園のHPへのリンクの設定がなされている。また、別ページには園の基本情報、保育・教育の特色や主な行事、利用にあたっての各種の費用や持ち物・準備物などの具体的な内容が紹介されている。</p> <p>利用希望者に対して、多様な機会を設け、入園の検討に資する情報提供を行っている</p> <p>利用希望者に対して、多様な機会でも園に関する説明を行っている。入園説明会はオンラインを併用して実施し、園長から視覚的な工夫を凝らし、保育・教育で大切にしていることや特色、こどもに関わる人々とともに暮らしを味わう「ラーニングコミュニティ」、こどもたちの興味から発展する活動やゲストティーチャーとの関わり、小学校との接続等のほか、利用料金や通園方法などさまざまな説明をしている。今年度、「バス見学ツアー」を実施し、前述の説明に加え、園舎内や園庭の環境とこどもの姿や活動を見てもらい、給食の試食の機会も設けている。</p>	

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
<b>サブカテゴリー2の講評</b>			
<p><b>入園時の保護者への説明と同意確認、利用終了後の継続的な関わりなどを行っている</b></p> <p>入園を検討する方々に対して、保育・教育の方針や大切にすることを詳しく説明するほか、認定こども園の区分に応じ、入園決定者への説明会と入園前健診等を行っている。説明会では園長から園の方針や思いなどを再度伝えるほか、副園長・主任・看護師・栄養士が分担し、「園での過ごし方」をもとに一日の流れや準備物、保護者へのお願いごと、健康面の配慮事項や依頼、食事に関する事項などを保護者に説明し、これらの同意確認を行っている。卒園等の利用終了後については、学童の一時預かりやイベントへの招待など、継続的な関わりが持たれている。</p> <p><b>こども一人ひとりの発達や健康面の情報を把握し、保育開始に備えている</b></p> <p>入園時には保護者が記入・提出する各書類にて家庭状況、こどもの既往症や発育、食事・排せつ・睡眠・着脱・言葉などの発達状況や保護者の心配事などのほか、こどもの気になることや心身の発達で心配なこと、アレルギーの有無や種類といった健康面の情報を確認している。また入園願書の受付の際に、記入された情報を踏まえ、保護者から聴き取っており、把握した内容は所定の書式に記載し、一緒に保管している。なお、食物アレルギーがある場合は生活管理指導票をもとに、専門職が同席し、詳細な情報を把握・確認したうえで、園での対応を決定している。</p> <p><b>認定区分の違いや家庭の事情等に応じ、利用開始後の不安軽減に配慮している</b></p> <p>入園直後には認定区分の違いや個々の家庭の事情・希望に応じて保育を開始しており、時間を短くしながらの受け入れも可能となっている。園生活では安全に配慮しながらこどもが思い思いに過ごせるような見守りと支援に努めるほか、泣いているこどもがいたら気持ちを受けとめ、大人が関わったり、好きな遊びに誘いかけたりするなど個別の丁寧な対応を行っている。系列の小規模園とも連携を図り、小規模園の2歳児が園に遊びに来て、こどもが場所や人を知り、新しい生活に期待感をふくらませる機会を年間を通じて設けるなど、細やかに支援している。</p>			

サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>13/13</b>
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している <span style="float: right;">評点(〇〇〇〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、指導事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリー3の講評</b>		
<p> <b>全体的な計画をもとに年齢別の実践的な計画に展開し、評価・反省に取り組んでいる</b>                      園の事業の目的や教育方針、教育・保育理念をもとに全体的な計画を作成し、それをもとに年間計画や月案が策定され、より実践的な案となっている。週日案は、週の間に見られたこどもの姿を、園庭を含めた園内図上に写真とともにエピソードを記録しており、園内のどの場所でもどのような遊びが展開されているか、子ども同士のやり取りが行われているかなどが確認できるようになっている。園内でのこどもたちの興味・関心のある箇所を視覚化し、環境設定の参考にすることとしており、保育者が玩具の配置や遊びの素材の準備に役立っている。                 </p> <p> <b>こどもの成長・発達を記録・確認し、保育者間で共有して個別の援助に役立っている</b>                      一人ひとりの状況は、保護者記入の児童票に面談などで園が把握した情報を書き加えていくほか、「園児指導要録と学籍に関する記録と指導等に関する記録」において、個人のねらいとこどもの姿を記録している。日々こどもの様子を保護者に配信している「ドキュメンテーション」には活動内容や個人の名前をタグ付けしており、遊びの傾向や姿を分析して個別の成長・発達を確認している。満3歳児までの児童に対しては個別支援計画を作成しており、把握した内容や個別の配慮は、共有ミーティングなどで保育者間で共有し、身辺自立などの援助に役立っている。                 </p> <p> <b>保育方針や日々のこどもの姿を保護者に伝え、成長を共有している</b>                      保護者に配付している「せいわのくらし」には保育理念や保育方針、保育内容のほか、全体的な計画やクラスの計画を載せて伝えており、入園時や年度初めの保護者会では、年齢ごとのこどもたちの成長する姿を説明している。日々の様子は、毎日配信するドキュメンテーションに活動内容やその活動により成長する「10の姿」をタグつけて伝え、「ポートフォリオ」は各保護者に配信するほか、個別ファイルにまとめ、学期ごとに保護者に渡して確認してもらい、保護者記入のページを用意してともに綴るなど、こどもたちの成長の保護者との共有に努めている。                 </p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	5 / 5
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>こどものプライバシー情報の保護や人権と羞恥心への配慮に努めている</b></p> <p>衣服の着脱の機会が増える水遊びの前には、看護師が主導してこどもたちにプライベートゾーンの話をしており、自分や友達の身体は大切であることを伝えている。着替えの際には、衣服の着脱の順を伝えて全裸にならないよう声をかけたり、保育室の一角にカーテンを用いた更衣室を設けて、希望する子が人目に触れずに着替えたりできるようにしており、羞恥心の芽生えに配慮している。また、入園時にこどもたちの写真利用などについて保護者に同意確認をしているほか、外部とのやり取りが生じた場合には、該当者にそのつど確認を図っている。</p> <p><b>こども一人ひとりの意思や思いを尊重しながら、より適切な援助の検討と実践をしている</b></p> <p>基本理念「いきいき」と保育方針「こども中心」を掲げ、一人ひとりを尊重するとともに、全てのこどもたちが同じ空間で過ごすことができるインクルーシブ+ダイバーシティ保育を推進している。新年度会議の際にその内容を職員に説明するほか、委員会において個別の特性を踏まえた支援のあり方等の研鑽を図っている。また会議にはワークショップを採り入れ、こどもに対する言葉選びやNGワード、場面に応じたこどもへの声かけや対応等を話し合い、それぞれのこどもが心を寄せた興味・関心に寄り添い、さらに発展できるような援助の実践に努めている。</p> <p><b>多様な事情や家庭の状況等を受けとめ、それぞれに寄り添った支援と見守りに努めている</b></p> <p>各家庭の状況を踏まえた支援に努めており、外国籍のこどもの受け入れの際には、家庭の言葉・習慣・食事等を踏まえた個別の配慮を行っている。育児困難家庭への支援として気になる兆候等があれば副園長・園長に報告し、園内での見守りや情報共有を図るほか、市のネットワーク会議に参画し、関係機関との連携のもとで必要な対応を行うこととなっている。階層・職位に応じて保護者支援を含むキャリアアップ研修を受講したり、関連する行政や団体の研修に参加しており、職員会議での報告や報告書の閲覧などで組織内で知見を共有することとなっている。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	5 / 5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p><b>保育・教育の実践から日常の業務等の考え方や手順をまとめ、職員に毎年度配付している</b></p> <p>職員用「せいわようちえんのすごしかた」には、保育理念・方針・目標と年度の重点目標、年間行事予定、月ごとのテーマ、年齢別の指導計画や食育・安全・保健の計画、アプローチカリキュラムシート等の保育・教育面の実践に必要な事項のほか、職員の心得やルールとしての挨拶や身だしなみ、勤務上のルールや守秘義務から、書類の作成や掃除・安全・衛生に関連する手順などをまとめ、毎年の職員への配付と周知を図っている。嘔吐処理の手順やおんぶ紐の使い方、バス乗務に関する手順については、動画を作成し、いつでも確認ができるようにしている。</p> <p><b>安全に関する研鑽と対策を講じ、委員会活動による職員の改善活動にも取り組んでいる</b></p> <p>上記に加え、災害対応・避難確保計画マニュアルやバス運行のマニュアルなど、安全管理に関するマニュアルを整えている。また、消防署員を招き、心肺蘇生法やAEDの使い方の手順、アドレナリン自己注射液(エピペン)の模擬トレーナーを用いた訓練など、全職員が緊急時の対応を実戦形式で学ぶ機会を設けている。正規・準正規職員はキャリアアップに基づいた5つの分野の委員会にそれぞれ所属しており、外部との連携や研鑽、内部での学び合いや検討などを重ねながら、そこで得られたものを日常の教育・保育の実践や業務の遂行などに活かしている。</p> <p><b>法人及び園内でのさまざまな検討の仕組みを整え、必要な見直しや課題解決に努めている</b></p> <p>各種の書類の様式や重要な仕組みなどについては、コーディネーター以上の職員が法人内の会議に参加し、意見交換を図り、適宜更新するほか、園内においても園長・主任・コーディネーターが検討し、職員への提案や助言などを行っている。また、職員・保護者向けの「せいわようちえんのすごしかた」については年度ごとに内容の確認と、必要な部分の見直しを図っている。行事後のアンケートや第三者評価受審時の利用者調査、日常のコミュニケーションなどから保護者の声を把握し、自己評価・学校評価も行ってさまざまな課題・改善の検討に取り組んでいる。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評			
<p>こどもたちが主体的に過ごせるよう、興味や発達に応じた環境の設定に努めている</p> <p>こどもたちの日々の活動の様子は、「ドキュメンテーション」や週日案で記録し、園内のどの場所でもどのような遊びを展開しているのかを把握している。保育者は把握した情報を元に玩具の種類や配置場所を考慮し、こどもたちが主体的に遊べる環境設定に努めている。こどもたちが自由に手に取れる玩具や制作の素材をさまざまに用意しているほか、いつでも触れることのできるピアノやオルガンなどの楽器を複数備えている。こどもたちは、3歳以上児の部屋やアーケード、フィールド(園庭)を自由に行き来して主体的に遊びを選び、活動を楽しんでいる。</p> <p>こどもたちが世界の人々と交流し、文化の多様性に触れる多様な体験がなされている</p> <p>保育者や保護者の知人などを通じ、今年はオーストラリアやシンガポール・台湾などの世界の人々と、オンラインや対面での交流を体験している。現地での生活や言語、その国の観光地などを画面を通して紹介してもらい、世界にはさまざまな生活や文化があることを知る機会となっている。以前オンラインで交流した方が、来日して園で交流を図る機会も持たれている。また、外国籍の職員も在籍しているほか、3歳以上児は異年齢で過ごす時間もあり、こどもたちが日々の身近な関わりから文化や年齢による多様性に触れることが可能な環境を設定している。</p> <p>こどもの特性や思いに寄り添った援助に努め、就学に向けた小学校との連携を図っている</p> <p>子ども同士のトラブルでは、その内容や原因がどこにあるのかを、保育者が理解して対応することを大切にしている。こどもの気持ちの波があった場合には、その気分が落ち着けるような配慮を、思いの伝え合いが必要な場合には、思いを汲みながら伝え方を知らせるなどして仲立ちしている。個別の配慮を必要とするこどもには、個別支援計画と評価記録を学期ごとに作成し、適切な援助に努めている。保育者は幼保小連携連絡会に参加して小学校との連携に努め、就学に向けたアプローチカリキュラムを作成し、園でのこどもたちの育ちを小学校に伝えている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時にこどもたちの状況を把握し、保護者には多様な方法で園での様子を伝えている</p> <p>登園時には、保護者からの伝達やこどもたちの表情から、その日の体調や機嫌などを把握しているほか、満3歳児までは家庭とのアプリの連絡帳のやり取りで生活の様子を確認している。確認した情報は伝達ボードを用いて保育者間で共有し、必要に応じて体調の変化を観察したり、ゆったりと休める環境を用意したりしている。日中のこどもたちの活動の様子は、「ドキュメンテーション」として毎日アプリで配信して保護者に伝えている。また、送迎時に口頭で様子を伝え、必要に応じて家庭に電話連絡等をして、保護者とこどもの状況の共有を図っている。</p> <p>こどもたちの発達状況や意欲に合わせ、生活習慣の獲得につながる援助に取り組んでいる</p> <p>満3歳児までは個別支援計画をもとに個々の発達や意欲を確認し、保育者間で共有して個別の適切な援助に努めている。3歳以上児でも保育者が気づいた点など、共有ノートを活用して情報共有を図っており、把握した生活リズムや個々の意欲の変化などを排せつ時の援助などに役立てている。衣服の着脱では、発達や意欲を大切にしながら見守り、必要に応じてさりげなく援助するほか、自分で手に取って身の回りのことが行えるよう、発達に応じた掲示をしている。また異年齢で食事をする中で年上児の姿を見ながら、食具への興味や意欲にもつながっている。</p> <p>一人ひとりの生活リズムや体調などを考慮して、休息や睡眠を取れるよう配慮している</p> <p>各部屋にはソファを備えており、こどもたちがゆったりと過ごせるスペースを設定している。絵本を読んだり、友達との会話を楽しんだりする姿があるほか、横になってくつろぐ姿も見られている。個々の生活リズムや体力を把握して、早く眠くなる子には早めに布団を準備し、必要に応じて3歳以上児でも、横になれる場所を用意して身体を休めるようにしている。また個々の水筒で随時水分補給を行えるようにするほか、食事はランチルーム形式を採っており、それぞれのこどもの空腹の状況やタイミングに合わせて食べることができるように配慮している。</p>		

3 評価項目3 日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>「サークルタイム」の体験を通じて、こどもたちの対話力や協調性の向上が促されている</p> <p>朝の時間には、年齢別の小グループに分かれ、こどもたちが意見を出し合って活動内容を決めたり、自分の思いを話したりする「サークルタイム」を設けている。保育者は会話を見守りつつ、発達や個々の特性に応じて助言したり、援助したりするほか、話しやすく、自分以外の意見も聞けるような雰囲気づくりに努めている。サークルタイムを重ねることで、仲間意識が芽生え、対話力や協調性の向上が促されている。年長児では、各グループが園外保育で見学した内容を保護者に発表しており、こどもたちが内容を話し合い、協力しながら作り上げている。</p> <p>自然豊かな「フィールド」で、こどもが四季の変化を感じながら戸外遊びを楽しんでいる</p> <p>「フィールド」と呼ぶ園庭には多様な木を植え、色を変える葉や木の実を見上げながらこどもたちは四季を感じられるようになってきている。また「もぐもぐファーム」のコーナーで野菜を栽培したり、田植えの活動で出た糞を使って糞の家を作ったりして、多様な活動を楽しんでいる。ツリーハウスや起伏のある地面で身体を動かすことで体幹を鍛え、井戸の水を汲み上げて水遊びを経験し、「そとらぼらぼら」のコーナーで大人と一緒に工具を用いて木端での制作をしている。近隣の公園や農家の里山にも出かけており、自然の中での遊びを経験している。</p> <p>「ゲストティーチャー」の活動が、こどもたちの好奇心や興味の広がりにつながっている</p> <p>「ゲストティーチャー」と呼ばれる、動物園の元園長や陶芸家、茶道の先生など、さまざまな分野の知識を持つ地域の方を招き、こどもたちと活動を行っている。ゲストティーチャーがそれぞれの知見を伝え、アドバイスをしながらも、こどもたちの言葉や発案から活動の広がりを持たれており、グループごとにこども主体で変化するとともに、そのやり取りがこどもたちの興味・関心の広がりにつながっている。一例として、今年度は「どうぶつのじかん」に動物の生態を学び、その後、動物園に出かけ、グループごとに興味のある動物の観察に取り組んでいる。</p>		

4 評価項目4 日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>親子で体験しながら園内を巡る行事を通して、園での遊びや生活を保護者と共有している</p> <p>春にはSDGsの視点で、園での暮らしを保護者や地域の方と体験する日として「SDGsアクション」、秋には園庭で身体を動かす気持ちよさを保護者や地域の人と楽しむ「秋のかぜフィールドストーリー」、年度末には子どもたちが1年間に表現したものを掲示し、保護者と共有する「春のかぜアートストーリー」など、親子でともに体験し、園での生活や遊び、活動の内容を保護者に伝える行事を行っている。各行事の前には、子どもたちの日々の活動の様子や遊びの変化していく過程を、「ドキュメンテーション」等で保護者に丁寧に伝えるようにしている。</p> <p>行事では、子どもたちが主体的に活動する姿を保護者に伝えている</p> <p>保護者を招いて行う行事では、日頃の園での遊びや生活の様子を保護者に見てもらうことを中心としており、子どもたちが主体的に遊ぶ中で声が上がって集団での活動となったものや、興味から派生した遊びなどを、ドキュメンテーションや実物を掲示して過程を説明している。年長児の「ポレポレストーリー」は、子どもたちが相談して作り上げたものを発表する場としており、小グループに分かれて園外活動等で体験したことを中心に、調べたりまとめたり、また保護者に伝える方法を考えたりするなど、主体的に活動していく様子を保護者と共有している。</p> <p>日本の伝統行事や季節を感じる行事にさまざまに取り組んでいる</p> <p>時季に合わせて筍・大根・芋等の収穫をしたり、子どもたちが自然に触れる中で季節を感じるほか、こどもの日や七夕・月見・ひな祭りなどの伝統行事では、子どもたちが主体となり、行事の意味などを調べ、集会で発表する機会も設けている。餅つきやしめ縄作り・どんど焼きなどの年末年始の行事は、地域の方の協力を得て子どもたちの豊かな体験につながるようにしている。今年度の節分は豆まきの伝承を伝えるだけでなく、使用する大豆に焦点を当て、大豆を使った製品や料理の紹介をしたり、調理方法により硬さの異なる大豆に触れたりする機会としている。</p>		
5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>朝夕保育の時間帯の保育計画を作成し、安心して過ごせる環境を用意している</p> <p>保育時間が長くなる子どもたちが安心して過ごせるよう「預かり延長保育カリキュラム」で計画を作成し、こどもの姿から環境構成や保育者の配慮、活動場所などを立案している。時間帯や子どもたちの人数に合わせて過ごす部屋をそれぞれ用意したり、この時間帯に設定する玩具などを用意して子どもたちが新鮮な気持ちで過ごせるようにしている。一日を通した活動内容や活動量を考慮して、ゆったりと過ごしたり、じっくりと遊べるような玩具を用意する配慮に努めるほか、必要に応じてソファのあるスペースで身体を休める環境を整えている。</p> <p>異年齢で過ごす時間帯は、安全に配慮しながらさまざまな関わりの援助に努めている</p> <p>朝夕保育の時間帯は異年齢で過ごしており、さまざまな関わり合いが持たれている。年上児の遊びの様子をまねをして年下児が遊んだり、年下児にさりげなく遊びを教えてあげたりする姿が見られている。年下児が動きの大きな年上児との衝突を回避できるよう、遊びによって場所を分け、年上児が周囲に注意を払えるよう声をかけるなど、異年齢で過ごすならではの安全への配慮に努めている。年齢により発達差がある中でのさみの使用などには特に留意し、保育者がそばにつくなどして、子どもがそれぞれ安全に好きな遊びを楽しめる環境を用意している。</p>		

6 評価項目6 子どもが食事を楽しめるよう配慮している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>子どもが落ち着いて食事ができるよう、食への親しみと意欲が持てる工夫をしている</b></p> <p>調理室は子どもたちが往来する際に調理員と視線を合わせることができる場所に位置しており、調理する姿を見ることで調理員や食事に対する親しみにつながっている。ランチルーム方式を採用し、子どもたちがお腹の空いた自分のタイミングで食事を取りに行くことができたり、好きな席を選んで座るなどの環境を用意したりすることで、子ども主体の暮らしの中で自然と食への関心や意欲が高められている。調理員が配膳台につき、子どもたちと好みや食欲についてやり取りをしながら食事量を決めているほか、おかわりも可能な限り対応している。</p> <p><b>個々の状況を踏まえ、安全に食事を提供できるよう配慮している</b></p> <p>献立は和食を中心に行事食や国際食を織り交ぜ、子どもの味覚の基礎を育むため、だしや素材の味を感じられる薄味としている。またひと月に同じ献立を複数回体験できるサイクルメニューとして、喫食状況を把握し、切り方や味付けの工夫に努めている。アレルギーのある場合には、医師の診断のもと対応食を提供しており、誤配膳・誤食の防止に向けて、専用のトレーや食札を用いたり、着座の位置を考慮したりするなど、視認性を高めている。他のこどもにも丁寧な手洗いや口のまわりを清潔にできるような声かけも行い、安全な環境を保つよう努めている。</p> <p><b>子どもたちが食に興味を持てるようさまざまな取組を図っている</b></p> <p>近隣の畑を借りて季節の野菜を栽培・収穫することや芋掘りなどを実施し、田んぼでの活動では田植えから稲刈りまでを経験している。旬の素材に触れられるよう、野菜の下処理を体験し、幼児クラスでは器具を使った調理に取り組んでいる。誕生児がその月の旬の食材でジャムを作って皆で食べるほか、園庭の木になる実を集めて調理をしたり焼いたりするなど、多様な食育活動を行っている。また園庭遊びの中で実を見つけた子どもたちが調理室に持っていき、栄養士とともに種類を調べるなど、食材への関心が知的好奇心の芽生えを促している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>こどもが自分の身体や健康等の大切さを知り、自ら考えて伝える力などを育てている</p> <p>看護師が定期的にテーマを決め、「サークルタイム」の際に保健に関する絵本を読み、こどもたちと対話しながら身体や健康等の理解を深めている。生活リズムの大切さ、手洗い・うがいや咳エチケット、食物アレルギーや熱中症などの留意点のほか、頭・目・耳等の役割や意味などを知らせたり、プライベートゾーンや自分自身の身を守ることの大切さを伝えている。また手洗いや水分補給、着替えなどは生活の場面ごとで取り組むほか、園でのケガや気持ち悪い時にどうしたらよいのかを問いかけ、自分の言葉で大人に伝えられるような支援も行っている。</p> <p>体験や遊びを通じて、身体・道具の使い方や危険の回避などを学べるよう支援している</p> <p>上記に加え、看護師が絵本やイラスト等を用いて歯の話や虫歯菌、虫歯になりやすい食べ物などを知らせている。園庭では起伏や凹凸のある場所とさまざまな遊具などで、自分の身体を使って遊ぶ体験を通じて、身体の使い方や身のこなしなどを自然と身につけたり、こどもが危険を回避する力が養われるように支援している。また木工活動エリア「そと・らぼらぼら」では必ず保育者がつき、こどもが大人に見守られながら道具を扱うことで、木等の素材や道具の特徴を知り、安全に使用方法を学んでいる。さらに警察署による交通安全教室も行われている。</p> <p>嘱託医や保護者との連携をもとに、こどもの健康の維持・管理に努めている</p> <p>こどもの健康面での個別の配慮事項が必要な際には保護者と連携を図り、一人ひとりに応じた対応や配慮に努めている。また嘱託医による健診があり、こどもの発育・健康状態を把握・記録するとともに、その際及び随時の機会に嘱託医・産業医への相談ができる体制が整えられている。保健便りでは季節ごとの感染症や健康管理での留意点と、家庭で役立つこどもの健康維持やケアなどの情報を提供している。園内で感染症が発生した際には、その人数と、予防対策や罹患時の留意点、回復後の登園届の有無などを保護者に知らせ、まん延防止に配慮している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

さまざまな状況の保護者を支援できるよう、多様な配慮と取組がなされている

保護者の子育てや生活形態の違いなどを入園時やその後の面談等を通じて把握し、悩みの共有や意見交換をしたり、園として可能な配慮や支援に努めている。また保育時間の変更等があれば、所定の様式の届出を受け付け、時間変更の対応を行うほか、急な残業等に伴う保育にも柔軟に対応している。その他、連絡アプリの利用と各便り等の配信、個人面談等での希望に応じたオンライン対応などICTの活用のほか、園バス及び市の送迎バスの運行、希望制の紙おむつの定額利用サービスの導入、きょうだい児の利用料等の割引などの配慮もなされている。

保護者のつながりの場や意見交換・交流ができる場をさまざまに提供している

懇談会ではこどもの様子や関心を寄せること、園の大切にすることなどを伝えるだけでなく、保護者同士の懇談の時間を設けることで、同年代のこどもを持つ子育ての悩みを共有したり、他の方のアドバイスを聴いたりして、その解消の一助となるようにしている。また、「ボレボレの会」では全学年の保護者が集い、交流を図るほか、各行事の参加時にも保護者同士の関わりが持たれている。「ゆったりラウンジ」「ゆるやかフェ」等は地域や在園の保護者が参加可能となっており、各家庭のつながりと、保護者のリフレッシュができる時間・空間を提供している。

こどもの日頃の興味・関心や暮らしの様子、園の方針などを保護者に知らせている

入園前から入園後の各機会において、園の方針や大切にすることを説明するほか、園便りや学年便りなどを通じて、園の理念や方針に基づいたこどもの様子や暮らしの中のエピソードなどを伝えるとともに、写真を活用してその状況が伝わりやすいよう工夫している。また「ドキュメンテーション」や「ポートフォリオ」などのこどもたちの活動やそれぞれの興味・成長などはアプリを活用して共有している。さらに、学期ごとでポートフォリオを見てもらい、保護者にコメントをもらうほか、親子体験や保護者参加の行事を設け、相互の理解にもつなげている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>子どもたちの体験や興味・視野を広げる多様な活動を取り入れている</b></p> <p>地域の多様な人材と一緒にこどものやりたいという気持ちを広げ、深めるため、年度によって自然・木・素材遊び・茶道・動物などの「ゲストティーチャー」を招いており、さまざまな遊び・活動の提案をもらう中で、子どもたちが興味・関心を高めたり、そこから新たな取組や探究活動などへと発展している。またオンラインでセブ島の英語の先生とつながり、ゲーム感覚でやり取りを楽しむほか、オーストラリアやシンガポール・台湾などの世界の人と交流し、現地での生活や言語、その国の人々の暮らしなどを紹介してもらうといった経験が得られている。</p> <p><b>子どもたちが地域の方々との関わりが持てるようにさまざまに取り組んでいる</b></p> <p>地域の未就園の子ども・保護者を行事に招いたり、小学生がボランティアとして参加したりするほか、市のボランティアの方や幼稚園教諭や保育士の養成校の実習生を受け入れるなど、多様な人との関わりが持てるようになっている。また小学校との連携を図り、子どもたちが近隣の小学校の校庭を見せてもらったり、山崎団地の遊び場に出かける機会も設けている。その他にも、5歳児が園のバスで出かけ、農家の方に田植えを教えてもらったり、稲の収穫を体験するほか、その奥にある裏山で自然体験を行う際には、道中で稲の生長を観察したりしている。</p> <p><b>対話を通じた気づきやつぶやきが、実際の体験を交えた探究活動につながっている</b></p> <p>日頃から「サークルタイム」等で対話を重ねており、一つのきっかけを通じて生じた子どもたちの気づきやつぶやきなどが探究活動につながっている。例えば花火に興味を持ち、地域の花火商店に出かけ、種類や大きさ、音等を調べるほか、藁から発想を得て古民家を見学に行ったり、映画館を作りたいという意欲から実際に見に行くなどしている。また市の環境活動の一環として、川の絵を描いたことをきっかけに、生物や川の湧き水の発見を楽しみ、その後に園庭の鍋やフライパンにたまった水に気づき、透明な水に変えるためのろ過の実験に取り組んでいる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	こどもの主体性を尊重した保育・教育の実践が日々重ねられている	
内容①	こどもの主体性を尊重した実践が日々重ねられている。こどもたちが保育室や園庭など、園内を自由に行き来し、自分の好きな遊びを選べるようにするほか、食事においても自分のタイミングで、席を選んで食べられるようにしている。また、朝の時間には、年齢別の小グループに分かれ、こどもが意見を出し合って活動内容を決めたり、「サークルタイム」を設け、自分の思いを伝え合っている。さらに年長児の園外保育ではグループごとに、行き先を話し合っ決め、見学した内容を保護者に発表する際にも、こどもたちが主体的に協力しながら取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	こどもを中心として保護者と育ちを共有したり、保護者同士の交流機会も提供している	
内容②	園のその日の様子を知らせる「ドキュメンテーション」、こども一人ひとりの学びの記録「ポートフォリオ」を作成し、アプリを通じて保護者と共有するほか、ポートフォリオはファイルにまとめ、学期ごとに保護者と共有し、コメントをもらうなど、こどもの育ちの共有化を図っている。また各行事への参加からこどもの今の姿や興味などを見たり、体験してもらうほか、保護者同士の会話や交流にもつなげている。今年度は2・3歳児クラスの保護者にこどもに関するアンケートを実施し、その後に希望者を対象として面談を行うといった配慮もなされている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	こどもたちが同じ空間で過ごせるよう、一人ひとりや多様性の尊重に努めている	
内容③	全てのこどもたちが同じ空間で過ごし、こども一人ひとりを尊重することを大切にしている。外国籍のこどもの受け入れの際には家庭の言葉・習慣・食事などを尊重し、それに応じた個別の配慮と対応を行うほか、発達や生活上の困難があるこどもは大人が必要な支援を行いながら、その子にとって過ごしやすい空間と時間の提供に努めている。さらに海外の方が職員としてこどもと日常的に関わったり、特別支援や多文化教育に関する職員参画の委員会での研鑽を図るなど、園内での多様性・多文化社会の包括支援の実現を目指し、さまざまに取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	こどもたちの食事や食材への興味や意欲を高め、こどもたちが主体的に楽しみながら食事ができるよう、さまざまに取り組んでいる
	内容	季節に合わせた野菜を栽培し、収穫して園庭で焼いて食べるほか、野菜の皮むきをするなど、旬の食材に触れる機会を設けている。日本の伝統行事に合わせた料理も提供し、外国に興味を持ったこどもたちのリクエストで外国の料理を採り入れるなど、食文化の多様性にも触れている。食事はランチルームで提供する方式を採用しており、お腹の空いた自分のタイミングで、友達と好きな席を選んで座って食事を摂れるようにするほか、配膳の際には、こどもたちが調理員とやり取りしながら量を決めるなど、こどもが主体的に食事に向かえるようにしている。
2	タイトル	自然豊かな園庭での活動を通じて、こどもが季節を体感しながら、多様な活動を展開しており、自然とバランス感覚や体幹等も養われている
	内容	「フィールド」と名付けられた園庭には多種類の木々が植えられているほか、ピオトープ等が備えられ、葉の色が変わり、さまざまな実のなる木々を見上げたり、井戸水に触れることで、こどもたちは季節があることを体感している。「そとらぼらぼら」と呼ばれるコーナーには、保育者と一緒に見える本物の工具が備えられ、木端を自由に使って制作を行ったり、ピザ窯で食材を焼くなど、自然豊かな園庭で季節の移り変わりを感じながら、多様な体験を重ねている。また築山など起伏のある地面を歩き回ること、体幹やバランス感覚なども自然に養われている。
3	タイトル	園や法人の多様な資源を活用し、地域のコミュニティとも連携しながら、多層的な取組によって豊かな子育ての街づくりに取り組んでいる
	内容	上述の園庭を、平日は毎日地域の子育て家庭にも開放しており、室内や園庭でさまざまな体験を楽しめる親子の遊び場「ころころひろば」も年間を通じて実施している。また市内に法人が設置した拠点では、子育て家庭のくつろぎと交流の場や各種の子育てイベントのほか、一時保育や保護者のリモートワークスペースも提供する「ゆったりラウンジ」をはじめ、法人合同の「おやつつながりくらぶ」を実施している。さらに地域の団地を管理する法人と連携し、こどもたちの「冒険遊び場」を今年度から開始するほか、近隣の都立高校との交流も活発に持たれている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	多様な発信内容や調査結果等の分析・整理などから、園の取組や配慮などがより保護者に伝わるような工夫を一考されたい
	内容	園の方針や大切にすることを多様な機会で説明するほか、各便りを通じてこどもの様子や暮らしの中のエピソードなどを知らせている。写真を活用して可視化した「ドキュメンテーション」や、一人ひとりの成長の記録「ポートフォリオ」などアプリを活用して共有したり、「春のかぜアートストーリー」等の実際に見てもらえる機会も設けている。これら多様な取組をしているが、保護者の理解をさらに深めることにはさらなる向上の余地もあり、利用者調査の結果や現状の発信内容の分析と整理等から、園の取組や配慮などがより伝わるような工夫も一考されたい。
2	タイトル	園のビジョンを現場とより深く共有しながら、ライフステージに応じた多様な働き方を包摂する職場づくりにも取り組むまいと考えている
	内容	職員自己評価では働く環境について、さらなる向上を望む現場の意向が示唆されており、それとも関連してか、職員の声の運営への反映に関しても、経営層と現場との認識のギャップが見られている。経営層は調査当時の園の状況も一因と考えており、担当職員の増員や現場への啓発・説明など、負担感や職員の不安の軽減に努めている。インクルーシブ保育・多文化共生をはじめ、園の目指すものをさらに現場に発信し、相互理解を図るとともに、各人のライフステージに応じた多様な働き方を包摂する職場づくりにも取り組む意向であり、その進展を期待したい。
3	タイトル	事例をもとに種々の事故の予防・防止を図る仕組みの精度をさらに高め、発達援助と安全確保の両立につなげることを期待したい
	内容	こどものケガ等の事故やヒヤリハットは、事例の検証・考察によって必要な防止対策につなげている。ヒヤリハットは担当委員会が集計と分析を行い、発生の傾向を毎月の職員会議で報告しており、同様の取組は現場の負担増にも配慮しつつ、ケガ等の事故についても行うことが期待される。また受診を伴わない軽微なケガについても、記録のあり方の見直しなどにより、原因・対策などを発生のつど考察・共有する習慣の定着を図るなど、こどもの体験からの安全への学びも大切にしつつ、防げる事故等は防いでゆく仕組みの精度を、さらに高める工夫も期待したい。